

高レベル放射性廃棄物の最終処分場誘致に反対する決議

高レベル放射性廃棄物の最終処分場を対馬市内に誘致しようとする運動が陰に陽に進められており、ここにきて賛否両論が公然と論ぜられるようになり、やがて市民感情を二分する深刻な状況になることが懸念される。

この廃棄物は、原子力発電所で使用済になった燃料を再処理場でプルトニウムとウランを取り出した後に残る「死の灰」で、これをガラスと一緒に固め、ステンレス容器に詰めたものである。この容器一個で、長崎原爆約20発分以上の「死の灰」が詰まっており、これを4万個も地下300メートル以深に埋めるといふ。いくら地下とは言っても、その死の灰の毒性がなくなるまでには、数万年とも数十万年以上とも言われ、その間何が起こるか科学者も証明できないのである。従って、原発が日本で稼働して40年になるのに、この最終処分場が今日に至るも決まらない。「トイレのないマンション」と言われる由縁である。

この問題を考える場合、交付金と職場の確保が言われるが、逆にその風評被害でどれだけの農畜水産物に損害を及ぼすか計り知れない。観光と第一次産業を融合させた町づくりなど絵に描いた餅になってしまうし、被爆県長崎にあって孤立の道を歩むことになるだろう。更に言えば、対馬を離れ、対馬を想い、本土で頑張っておられる人達に、核のゴミの島を故郷にさせてはならない。そのことが対馬に生きる我々の使命である。

以上のとおり、その危険性と風評被害と孤立の道を選択するのではなく、風光明媚な先祖代々受け継いできた対馬と、その人情豊かな島民性を守り抜くことこそ、子子孫孫に対する我々の使命である。従って、高レベル放射性廃棄物の最終処分場誘致には絶対反対である。以上決議する。

平成19年 3 月19日

長崎県 対馬市議会